

人のうごき

平成26年2月届出分を掲載(希望者のみ)

おたんじょう

浅井 星奈^{せな}ちゃん (駿・李湖) 北町
 斉藤 心温^{こはる}ちゃん (尚弥・志保) 焼尻

ごけっこん

竹村 寛城^{かんじょう}さん 常本 由希乃^{ゆきの}さん 南4の2
 柳谷 武志^{たけし}さん 綱川 諒子^{りょうこ}さん 天売

おくやみ

足達 安治^{やすし}さん 85歳 南5の5
 小松 美雪^{みゆき}さん 84歳 南6の1
 川口 健^{けん}さん 64歳 北大通
 馬場 勝義^{かつぎ}さん 80歳 栄町
 高岡 仙太郎^{せんたろう}さん 89歳 栄町
 石山 保則^{たけのり}さん 99歳 高台



蕎麦さろん東庵 顧問

菅森 彦一 さん (79才・港町)

これでいいとはならない
 試行錯誤を重ねながら
 いつまでたつても挑戦だね

「職場を退職して趣味を探していた時に、公民館の成人講座に行ったのが始めだね。」とそば打ちを始めたきつかけを話してくれたのは、蕎麦さろん東庵の発足時には会長として、現在は顧問を務めている菅森さん。会は月2回の集まりのほか、町民芸術祭のパザールやしあわせ荘をはじめとする福祉施設の慰問を長年にわたり行っています。今回、その功績により教育委員会から羽幌町文化賞・体育賞の文化奨励賞を受賞しました。また、会は今年で15年を迎え、記念の事業を検討しているそうです。

現在、素人そば打ち3段の資格を持つ菅森さんへそば打ちの秘けつを伺うと、「そばは練りの段階でその出来がきまつてくる。それを失敗すると、コシがなくなったり、ゆでた時に(そばが)切れてしまう。水加減、練り方がとても大切。」
 「同じものは一度とできない。今日できたのはどこが悪かったのか、次つくるときは悪かった所を気をつけようと思ってるので、いつまでたつても挑戦だね。やっぱり数をやらないと頭で分かっているも、いいものできないから、とにかく作らないとだめ。だから、結構奥が深い趣味というか、これいいってことがない。」とそば打ちの魅力とその奥深さについて語ってくれました。

編集後記

道立羽幌病院では平成19年4月から常勤の小児科医が不在となり、小児科はこれまで留萌や旭川などからの応援医師によって週1回と隔週での診療体制でした。4月からは8年ぶりに小児科医が常勤となり、毎日受診できるようになります(12頁参照)。

また、昨年からは新たな取り組みとして、医師による健康に関する出前講座の開催をはじめ、町広報誌へのコラムの執筆「ブログ」の開設、さらに、病院から遠い通院患者への巡回診療の実施など、普段の診療で多忙の折にもかかわらず地域医療のため日々奮闘してくれています。わたしたちも、緊急性のない場合は夜間休日などの診療を控え、十分な診療体制が維持できるように協力しましょう。(N)

人口と世帯数(2月末)

人口	7,699人	(-18)
男	3,659人	(-11)
女	4,040人	(-7)
世帯数	3,767世帯	(-3)
	()	は前月比

